

第3回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和3年8月26日（木）10:00～12:00

場 所：四万十町役場東庁舎1階大ホール

出席者（18名）：横山 順一、尾崎 弘明、神田 修、横山 泰久、佐々木 将司、
田邊 誠進、中島 克明、船村 覺、三浦 ひろみ、森 雅順、
岡村 健志、酒井 紀子、鈴木 幸代、野村 宏、藤澤 久美子、
八木 雅昭、山本 由美、田村 敬子
(敬称略)

欠席者（2名）：太田 祥一、泉 茂
(敬称略)

事 務 局：四万十町役場企画課（5名）
" 町民課（1名）
" 生涯学習課（1名）
" 学校教育課（2名）
" 環境水道課（1名）
" 建設課（1名）
" 高齢者支援課（1名）
" 健康福祉課（1名）

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 前回会議の振り返り
- 4 後期基本計画（案）について意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

■ 会議資料

- 1 会次第
- 2 委員名簿
- 3 第2回総合振興計画審議会におけるご意見等について

■ 会議録

(事務局)

それでは、本年度第3回目となります総合振興計画の審議会を始めさせていただきます。今回コロナの感染拡大の影響もありまして、高知大学の岡村委員さんにはリモートでの参加をお願いしておりますのでよろしくお願いいたします。開会にあたりまして八木会長よりご挨拶申し上げます。

(八木会長)

皆さんこんにちは。今日は第3回の総合振興計画審議会ということですが、先ほど事務局よりお話がありましたけれど、新型コロナウイルスの感染の影響もありまして、昨日の発表では高知県下で101名の新規感染者の報告が上がっております。会議とかイベントに関しましても、今後状況が変わってくるものと思いますが、会議の方も進めていきたいと思います。内容につきましては、後ほど事務局の方から説明があると思いますので、その後残っている案件について議論いただくということにしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。それでは、早速ですが会次第に沿って進めていきたいと思えます。会次第3番目の前回会議の振り返りに移らせていただきます。なお、本日は町民課、生涯学習課、学校教育課、環境水道課、建設課、高齢者支援課、健康福祉課の課長又は副課長にも出席いただいておりますので、後ほどご質問などありましたら回答の方をお願いしたいと思います。それでは資料の説明をさせていただきます。

<事務局より資料説明>

(八木会長)

ただ今事務局の方から前回の会議で出された質問や意見について回答がありましたら、これについてご質問などありませんか。

(神田委員)

21番で全体的に見直しを行うというところですが、3ページのところに基本構想と基本計画、そして実施計画があるということを書いてあるわけですが、この実施計画については本来ここに書き込まれないものですよ。分かり易く、ここでつながるようにしてくださいというご意見だと思いますけれど、その確認をしたいです。

(事務局)

はい。21番のご意見について事務局の方の捉え方なんですけど、この基本計画の例え

ば28ページを見ていただきましたら、現況と課題を書かれているところがあり、そのあとに課題に対応した施策が記載されているわけですが、中には課題に対する施策がないところがあるんじゃないかというご意見かと思っております。

(神田委員)

わかりました。ありがとうございます。

(八木会長)

他にご質問はありませんか。ないようですので、他に残っている項目についてご意見・ご質問がありましたらお願いします。ページ数でいいますと、47ページ以降ということになりますが、全体でまとめて結構ですのでよろしくお願いします。

後半部分については、教育とか福祉とか住民に近いところでの内容となっておりますのでよろしくお願いします。

(鈴木委員)

人権にかかわる部分になるかと思いますが、性的少数者についての問題を町としても、その存在をしっかり認識し、人権も尊重していくということを盛り込んでいただけたらと思います。

(町民課)

人権について、性的少数者について盛り込んでいくべきではというご意見をいただいたところですが、現在町において基本的人権についての考え方、教育のあり方や普及啓発活動について、どのように取り組んでいくかということで、条例の制定に向けて検討を進めているところです。そのあと、来年度以降になりますけれど、条例が策定されましたら、具体的な計画も作っていく予定となっております。

(山本委員)

43ページですが、教育環境の充実というところですが、入学者数の減少が続いている町内2校の高校の活性化とありますけれど、私も窪川高校の回りをウォーキングするときもあり、広いグラウンドがありますが、平日も休日も生徒をみかけることがないです。それに比べて中学校の方は活発にクラブ活動をしている生徒の姿をみかけますが、そのあたりが中学校と高校で随分差があるのではないかと感じます。地元の窪川高校の魅力は、大学進学の実績だけではなく、クラブ活動の充実もあると思いますが。

(八木会長)

総合振興計画に書き込むかは別としても、担当課の方で今後高校との連携の中で意見を交わしていただけたらと思います。

(企画課)

高校の魅力化につきましては、前回の会でも少し触れさせていただきましたけれど、「町営塾じゆうく」の活動ですとか、そういったところで取り組んでいるところです。入学者数の減少が続くと、町内2校の統合という問題が出てくるということがございまして、委員さんおっしゃられるとおり、大学の進学率だけが高校の魅力ということはこちらも考えてはいないところです。クラブ活動の充実というところも取り組むべき課題ではあると思いますが、実質指導者の確保や、生徒さんがどういったクラブ活動を望んでいるのかといったところも検討しながら進めなくてはいけませんので、高校側とそういった点についても協議しながら、町としてできる支援は行っていきたいと考えております。

(酒井委員)

今日の進行についてお願いしたいのですが、後半部分もページが沢山ありますので、項目ごとに区切りながら進めていただけたらと思います。

(八木会長)

先ほど酒井委員が言われたような形に切り替えていった方が議論しやすいと思いますので、そういった形で進めて構いませんか。ではそういったことで進めていきたいと思っております。

では、施策目標(7)子どもを産み育てる環境の充実というところで、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

(藤澤委員)

41ページの子育てのところ、「児童数の減少が著しい施設の統廃合の検討を含め、計画的な施設整備が必要です。」との記述がありますが、具体的な計画があれば教えてください。

(生涯学習課)

まだ具体的な検討に入っていないというところですが、長期的に検討していかななくてはいけないということで記載させていただいております。

(八木会長)

イメージとしては、小学校の適正配置が終わってから検討するということですか。

(生涯学習課)

そうなります。まずは小学校の統廃合が先ということですか。

(八木会長)

他に何かございますか。それでは、ひとまず次の項目に移らせていただきます。施策目標（８）の教育環境の充実のところでご意見、ご質問がありましたらお願いします。

(横山(順一)委員)

指標のところ、ICT教育機器の電子黒板やタブレットのことが載っていますが、平成27年度では1校だったのが、令和8年度には全ての小中学校へという目標値となっています。一部のタブレットなどの機器については、今年度中には整備をされるのではないかと思います、そのあたりの現状について教えてください。

あと、44ページの主な個別計画のところですが、四万十町立小中学校教職員の働き方改革推進プランというものが出来ていると思いますが、これには入らないということでしょうか。

(学校教育課)

委員が言われましたICT教育機器につきましては、平成27年から順次導入しておりまして、全ての小中学校に電子黒板やパソコンの整備がされているところです。また、昨年コロナの影響もあり、国が進めているGIGAスクール構想というものがありまして、1人1台のタブレットというものを国が推し進める中で、小学校3年生から中学校3年生まで、1人1台のタブレットを整備して、今年の2学期から運用を始めるように準備している状況です。目標値として現況と変わっていないところについては、これを継続して活用を図っていききたいという中で、こういう表記をさせていただいております。

また、主な個別計画のところ、働き方改革推進プランのことですが、今年度作成をしていく計画となっております、まだ作成途中ということですので、こちらには記載はしていないということになります。

(中島委員)

44ページの施策のところですが、学校や教育委員会で取り組んでいることが網羅的に書かれていると思いますが、施策の順番について検討いただければと思います。例えば、1つ目の確かな学力の育成というところは、教育内容になっており、次のデジタル社会に向けた教育の推進については、教育方法になっており、3つ目の豊かな心と健やかな体づくりについては、教育内容になっており、4つ目の働き方改革については、教職員について、5つ目の特別支援教育については、教育内容とか記載の仕方がばらばらになっているように感じます。ひょっとして、43ページの現況と課題に対応した記載の順番になっているのかも分かりませんが、内容は内容で固めたり、方法は方法で固めたりした方が見やすくないのではないかと思います。

(八木会長)

記載の仕方ですが、訂正ができましたら検討いただきたいと思いますし、現況の課題とリンクするようにお願いします。他にご意見はありませんか。

(神田委員)

なかなか難しい部分があると思いますが、施策の44ページを見ると、当然デジタル社会でございますので、環境を整えるということが書かれてあると思いますし、そもそも教育環境の充実という施策目標のところでございますので、デジタルを使えば使うほど、子どもの身体性といいますか、体を使って何かを習得していくということが見落とされていくのではないかと心配しています。我々の世代もそうですけど、例えば鉛筆削りができても、ナイフで鉛筆を研ぐことができるようにですとか、些細なことですけど、人間である以上肉体をもっているわけで、そこを育てていくということをどこかに書き込んでいただきたいなと思います。

(学校教育課)

学校教育課の岡です。こちらについては、内容を検討させていただきたいと思います。

(八木会長)

他にございませんか。それでは、続いて施策目標(9)の現在と未来を担う人材育成の推進のところに移りたいと思いますが、ご意見やご質問はありませんでしょうか。

ないようでしたら、続いて施策目標(10)の住民主体の地域づくりの推進に移りたいと思いますが、ご意見やご質問はありませんでしょうか。

(尾崎委員)

指標の中に、「集落活動センターの整備地域数」というのがあるわけですが、四万十町は今3カ所あるわけですが、目標は5地域となっています。残りのところで、予定している地域が分かっておれば教えていただければと思います。

(企画課)

集落活動センターの整備地域数については、当初集落活動センター事業が始まった段階で、町の方針として、四万十町内に5地域を目標に整備をしていきたいと思います。そのような形で進んできておりました、その数値を変えていないということになります。現状でどこか予定がありますかということですが、今年度家地川が出来まして、3カ所目が出来たわけですが、その他の地域については、一定そこも見据えた活動ということで耳にしているところもありますが、具体的な話としてはまだ煮詰まっていないというのが現状です。

(山本委員)

47ページの現況と課題で、「本町では、行政区や集落ごとの自治活動に加えて、福祉分野や環境分野のボランティアなど」とありますが、私は中学校から五社までの道のあたりにゴミが多くて、拾ったりもしているのですが、環境ボランティアというのは誰がやっているのでしょうか。ボランティアとしてやらなくても、本人が気づけばきれいにするのが普通だと思いますが、ボランティアとしての活動が行われているところがあれば、どのような形で行っているのか教えてください。

(企画課)

ここに書いてある意図としては、通常の集落の活動である自治活動があるのですが、それに加えて集落ごとに環境分野でボランティア的に活動していただくという意味の表記となっています。個別に環境ボランティアという方を募っているわけではありません。委員さんおっしゃられたように、例えばゴミが落ちていることに気づいた時に清掃をしていただくということや、四万十川一斉清掃の時に協力をしていただくとか、街分であれば6月に市街地一斉清掃なども行っておりますので、そういった活動に集落の方にボランティア的に参加していただいておりますので、そういった活動のことを指しているということです。

(山本委員)

今のままではゴミを捨てたりする方がなかなか減っていかないと思いますので、もう少し町民1人1人がゴミを拾うというよりは、捨てないということを意識する必要があると思います。

(企画課)

その点については今後も環境水道課と連携して随時取り組んでいきたいと思っています。

(酒井委員)

現在と未来を担う人材育成の推進のところなんですけど、以前から少し気になっていたのですが、行われている取り組みがどこかのコミュニティに属している方とか、一定力があって、応募する力もあり、その時間帯に参加できる方に限定されている取り組みが多くて、以前生涯学習課に個人で自分のスキルを磨くような講座なり、そういうのがありますかということ聞いたんですが、エクセルとかワードとかの講座は人気なくて、結局はあまりできていないという話を聞いたことがありました。貧富の差がなく、誰でも自由に利用できる図書館という立ち位置がすごく弱いような気がしています。図書館を利用して一人一人が力をつけていけば、先ほどお話もされていまして人権のこととかゴミの問題とかそういったことにもつながっていくと思いますが、図書館ということの表記はここではされないのでしょうか。

(企画課)

おっしゃるとおりだと思います。講座であれば講師を呼んで教室のような形で開催するというのが今までの流れだと思います。例えば、図書館とか美術館ということであれば、いつでもいける時間にいけば、学芸員がいたり、司書がいたりするわけですけど、そういった形でお手伝いができるということがあれば、それが望ましいと思いますし、現在文化的施設の方でもそういったサービス計画を検討しているところだと思います。それについては、51ページのところで一定触れられていると思いますし、今後そういった点について煮詰めていって、計画書への載せ方についても検討させていただきたいと思います。文化的施設そのもののサービス計画も策定中ということもありますので。

(酒井委員)

現在進行中の文化的施設ということ以前に、図書や文化施設的なものについての意識があまりにも見方が低いように感じられますので、今回の文化的施設がどうなるということは関係なくて、別個に文言として力を入れてほしいなというのがあります。

(企画課)

分かりました。今後の取り組みにつなげるような形で検討させていただければと思います。

(八木会長)

これまでに公民館活動が活発な時期もありまして、四万十町は公民館活動を今のところしてないですけど、地域によっては人の社会教育をしながら、地域づくりをしている地域もあり、人間的に高めていけるような仕組みづくりも大事だと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

住民主体の地域づくりの推進のところで他に何かありませんでしょうか。ここには、まちづくり基本条例にもありますように、情報の開示ですとか、住民の参画や協働というところなど主体的な住民自治をしていくための大きな柱だと思いますのでご意見ありましたらお願いします。

(山本委員)

先ほど、文化的施設の話もありましたが、3週間ほど前に文化的施設の現場で説明会があると聞きました。延期になったようですが、今度いつありますでしょうか。また、文化的施設が建設される予定のところは線路のすぐ近くだと思いますが、騒音とかそのあたりは大丈夫でしょうか。

(企画課)

文化的施設の現地での説明会については、コロナの影響もありまして、延期になった

かと思いますが、次回いつになるかというところについては確認をしてからご報告をさせていただきます。あと、立地場所の騒音の関係ですけれど、現在は建築技術が進んでおりまして、防音対策はしっかりできるのではないかと思います。

(鈴木委員)

集落活動センターについてお伺いしたいのですが、私の身近な人で地域の事をどうしたら良いか本気で考えている方がいまして、その活動の中で、集落活動センターの取り組みについて良いと思っているのですが、県の事業としてサポートが受けれるのは最初の3年ぐらいだと思います。そのため、その後の経営が心配で、集落活動センターの取り組みに踏み出せないということなんです、その後維持していくということは普通の人にはとてもハードルが高いことだと思いますが、町として支えてあげることがあるのかどうか教えてください。

(企画課)

集落活動センターについては、7年ぐらい前から事業化がされまして、現在町内に3カ所となります。制度の創設当初から、集落活動センターを整備して、整備後3年間は集落支援員の配置ということで、専属の方を雇用できる人件費の補助でありますとか、3年間は活動が軌道にのるまでの準備とし、県を通じてまして、様々な支援を行っているところです。集落活動センターそのものは、ゆくゆくは1本立ちをして、自分のところで採算をとって、自立して活動をしていくという事が、そもそもの制度の趣旨、根幹となっておりますので、現状では4年目からの金銭的な支援は基本的にないということです。ただし、活動そのものについての助言ですとか、様々な町としての関わりは続けていきますし、例えば当初からやっていた活動とまったく違う新たな活動を開始する場合については、その新たな活動に要する費用の一部を支援するといったことについては、今年度から開始したということございまして、まったく手を離すところから、ちょっと方向を見直したところがあるということです。

(鈴木委員)

可能でしたら、新たな活動に対する具体的な支援の例を教えてくださいませんか。

(企画課)

今年から始まったところなので、具体的な活用例はまだありません。

(八木会長)

集落活動センターを設置することが目的ではなくて、併せてその地域の住民活動を高めていくということが大事になっていきますのでその点についてお願いをしていきたいと思います。

それでは、他になければ施策目標（11）の人権尊重の推進に移りたいと思います。先ほど若干ご意見が出ましたけれど何かご意見等ありませんでしょうか。

はい、それでは先ほど町民課長からもご説明もありましたので、次に進めたいとお滯ります。施策目標（12）の芸術文化・生涯学習・スポーツの推進に移りたいと思いますが、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

（企画課）

先ほどご質問がありました文化的施設の建設現場での説明会につきましては、コロナの影響などもありまして、正確な日程までは決定しておりませんが、9月議会が終わりますから10月ぐらいを目途に計画しているようですので、ご理解いただければと思います。

（酒井委員）

51ページの指標にある総合型地域スポーツクラブ加入率についてですけれど、これはどのように見たら良いでしょうか。例えば、B&Gにある水泳とかダンスとかそういったものも入っていると思うんですが、十和地域ですと距離もかなりありますので、講師の方を十和の方へ派遣していただくとか、そういったものは今後の見通しの中でののでしょうか。

（生涯学習課）

総合型スポーツクラブというのは、十和・大正地域には十和・大正スポーツクラブ、窪川地域は窪川スポーツクラブが担っております。十和・大正地域の活動に関しましては、十和・大正スポーツクラブがいろいろな委託事業も含め実施しております。

（酒井委員）

そしたら、こういったサービスをお願いしたい場合は、十和・大正スポーツクラブにお願いをしたら良いでしょうか。

（生涯学習課）

まずは振興局の方へ依頼をしていただけたらと思います。そこから、スポーツクラブの方へ相談していただけるとと思いますのでよろしくをお願いします。

（酒井委員）

わかりました。それでは、この総合型地域スポーツクラブ加入率というのは、それぞれのスポーツクラブに加入している人の割合ということになりますか。

(生涯学習課)

そうです。

(八木会長)

他にありませんか。それでは、次に進めて参ります。施策目標(13)保健・医療環境の充実についてご意見がありましたらお願いします。

(野村委員)

保健・医療環境の充実ということですが、よく行政の公約に災害に強いまちということが言われます。現在のコロナ禍は人災に起因する災害といわれています。これからは、感染症に強いまちをつくるということも1つ大事になってくるのではないのでしょうか。

(健康福祉課)

様々な病気や突発的なことに対応できる医療体制は必要だということになります。そのため今回、感染症につきましては四万十町では窪川病院が受け入れを行っており、コロナ患者や感染症が発生しても、一定数受け入れることができる体制は整えているところです。なお、今後につきましても医療機関や県を通じましてそういった体制を維持していけるよう努めて参ります。

(八木会長)

他にありませんか。

(酒井委員)

一番初めの方で予算に触れているページがあったと思います。こういった施策目標が、全体の予算に対してどの程度の割合を占めているのかということは、ここに示すのはあまりにも赤裸々になるので無理だと思いますが、こういったふうに私達としては理解しておいた方がよいのか、例えば医療のところでは厳しい財政運営が予想されますと書いてありますけれど、今の四万十町の予算の中で何パーセント占めているとか、高齢者の方もそうですし、教育の方もそうですし、それが目に見えてわかればもう少しイメージが湧きやすいと思うのですが。

(八木会長)

町の全体予算としての事になりますので、担当課の方ではなかなかわからないことも分かりませんが。

(企画課)

全体的なところでお話をさせていただきますと、町の財政の細かい分析の結果につい

では、決算審査が終わった段階で、町のホームページ等でお知らせもしております。令和2年度については、決算審査の途中の段階なので、まだお知らせはできませんが、令和元年度についてはホームページで確認はできると思います。この計画書の中にそれをどう入れていくかというところですが、膨大な量の資料となりますので、可能であれば入れていきたいと思います。例えば、医療費であれば何パーセントですとか、建設費で何パーセントあるというのは分かると思いますのでちょっと検討させていただければと思います。

(八木会長)

この計画は、10年の後半分ということになりますので、記載の仕方はこれとして、できれば添付の資料等で住民の方が分かりやすいものにしてはどうかと思いますのでよろしくお願いします。続きまして、施策目標(14)高齢者福祉の充実についてご意見等ありましたらお願いします。

(鈴木委員)

高齢者に関する仕事を最近させていただくようになって、ここに住んでいらっしゃる高齢者の方が本当に宝物だと感じるものがすごくあるんですね。高齢者というと地域で支えてあげるといった切り口が多いと思うんですが、それだけではなくて、先ほどお話にありました文化でもあると思います。計画の事からずれて申し訳ないのですが、四万十町通信に必ず赤ちゃんのコーナーがあり、それを否定するわけではないのですが、そこで町の宝としての高齢者を取り上げてくだされば、私は読みたいと思っています。独居生活を送られている方と接していると、その方のこれまでの生き方だとか背景だとか、そういったものが知られることないままで消えていってしまうということが、とてももったいなく感じています。何かの形で記録をしていただけたらいいなと思います。

(八木会長)

他にご意見はありませんか。

(田邊委員)

指標のところ、宅老所・運動自主グループの開設数で目標が50カ所となっていてますけれど、この開設する宅老所と運動自主グループはイコールということなんですか。

(高齢者支援課)

宅老所と運動自主グループですが、令和2年度の状況として、宅老所が14カ所、運動自主グループが17カ所となっており、それぞれを足した合計値となります。

(田邊委員)

宅老所の中に運動自主グループあるということですか。

(高齢者支援課)

違います。別ものになります。

(田邊委員)

分かりました。

(八木会長)

他にありませんか。なければ、続いて施策目標(15)障がい福祉の充実に移りたいと思います。何かご意見はございますか。

(尾崎委員)

前回も出たかも分かりませんが、ここの指標のところは前回とがらりと変わっておりますが、なぜ変わったのかと、59ページに児童発達支援の充実という施策が加わっておりますが、四万十町にこの児童発達支援というところの対象となるお子さんがどれくらいいるのかというところを教えてください。

(健康福祉課)

指標ががらりと変わったというところですが、これにつきましては障がい者計画、令和3年度から3年間取り組む障害福祉計画、障害児福祉計画に基づき、変更をさせていただきました。指標の変更については、計画との調整を図ったということになります。

それから、四万十町での児童発達支援が必要な対象者ということですが、現在支援が必要な実際の数は分かりませんが、保育士さんからの意見もお聞きしたところ一定数の相談したい人数がいることは把握をしているところであり、ニーズはあると考えております。

(八木会長)

ありがとうございます。例えば、保育所であれば加配保育士を配置している子どもの人数とか、学校だったら特別支援学級の数などが分かれば教えていただければと思いますが。

(健康福祉課)

すいません、数を確認してからお答えさせていただきたいですが。

(八木会長)

分かりました。

(学校教育課)

特別支援学級数の設置状況ということで、昨年度の実績ということになりますが、小学校は10校で16学級、中学校は4校で6学級ということになっております。

(八木会長)

はい、ありがとうございました。

(生涯学習課)

加配保育士の数については、確認して報告させていただきます。

(八木会長)

それでは、先にその他の質問等を受けたいと思います。何かございませんか。

(酒井委員)

ここにある障がいに対するとか、児童発達支援の方でも、ICT支援が確実にいるという方はいると思うんです。高齢者の方でも、見えなくなったものをタブレットで大きくしたら見るとか、学習障がいの子どもも本だと理解できないけれど、タブレットだと理解できるとかそういった子どもも一定数いると思いますが、そういったことは障がい福祉の充実のところには含まれないのでしょうか。

(健康福祉課)

ここには大きな内容で、障がい福祉の充実ということを書いておりますが、そういった具体的な支援については、第3期障害者計画、第6期障がい福祉計画等で記載していく内容だと思っております。障がい者のニーズに合わせた支援については、それぞれの計画で行うようになっており、実際そういう支援もごございますので、そういったところで対応していきたいと思っております。

(酒井委員)

それであれば、ICTに関してはどこの分野でも共通して必要な事だということでは言われていたので、神田委員が言われていたように身体性の事は担保する前提ですけれど、ICTの事は町の施策として、重要課題として、要所要所にあっても良いのかなと思われました。

(八木会長)

他にございませんか。それでは、続いて政策目標（16）の自然環境の保全のところへ進みたいと思います。何かご意見ご質問はありますか。

ないようでしたら、続いて施策目標（17）低炭素・循環型社会の推進についてご意見ご質問はありましたらお願いします。

(鈴木委員)

気になったところがありまして、「小水力発電の利活用については、有力な候補地が見つかっていない状況です」とありますが、どのような候補地探しをされたのか具体的なところを教えてください。

(環境水道課)

小水力ですので、小さい川にかけるものになります。大きな川ではなくて、小さな川で水量が一定見込めるところになります。だいたい前になりますが、各集落の方へ小水力発電をやってはどうかということで候補地を調べたことがあります。その時に上がってきたところで検討したことがあったのですが、小水力は平時の見回りですとか、日頃のメンテナンスなどが結構手間がかかるということになりまして、検討している地域ではできないということになったそうです。それで、現在に至るまでやりたいという地域がなくて、このような形で記載をさせていただいております。

(生涯学習課)

先程の加配保育士の数について報告をさせていただきます。認定こども園を入れて11施設で16人の加配保育士を配置しております。

(八木会長)

ありがとうございます。小水力発電のことについては、四万十町の環境基本計画の方に入っておりますでしょうか。

(環境水道課)

環境基本計画の方にも入ってくると思いますが、現在審議会の方にかけておりまして、今年計画を策定する予定となります。計画の中に入ってくる項目になると思います。

(酒井委員)

現状を教えてくださいなのですが、四万十町は四万十川がベースにある町であるので、自然環境についてこれまで目標とか対策を講じてきたと思いますが、先日十和のまちづくり委員会でも話が出てましたが、確実に水質は悪化しているという話も聞きました。それは体験や体感からになりますが、実際人口は減っていて水質は悪化しているの

でしょうか。

(企画課)

いわゆる水質検査に出てくる項目としては、ほぼ横ばい若しくはどちらかという改善傾向がみられています。例えば透明度に関しましては、昔は5mぐらい先まで見えていたのが、2mぐらい先までしか見えないということがあるのと、魚の数などが減っているというところで、水質が悪化しているのではないかと感覚的に捉えられているのではないかと思います。

(鈴木委員)

一つ戻らせていただいて、16番のところですが、自分も身近なところで川の水質に貢献できる場所として、生活排水を環境負荷が少ないものに変えていくということが大切だと思いますが、洗剤とか農薬とか環境負荷の少ないものを取り入れていくということを推進していただければありがたいなと思います。

(環境水道課)

すごく昔には自然に配慮した石鹸で洗うとか、自然にやさしい洗剤を推進することもやっていたと思います。今はやっておりませんが、そういう施策も大事なことで、持ち帰らせていただいて生かしていきたいと思います。

(八木会長)

続きまして、まち・くらしの基盤整備の推進について移りたいと思います。ご意見ご質問がありましたらお願いします。

(森委員)

四万十公社の森です。質問ではありませんが、まち・くらしの基盤整備の推進のところで、中ほどにあります情報・通信網のことについて話させていただきます。1つはケーブルネットワークについては四万十公社の方で運営をしております、その中で通信・情報は非常に重要な分野だと思っております。ただ、これを維持し、運営していくにあたりまして、非常に大事なことは実際に電気が通じていなかったら、本当に無意味なことなんです。それを行っていくにどうしていくのかということですが、道路に関係しているところの通信網の維持管理が非常に大事で、山とか谷とか自然の環境が破壊されると、それが元で電気が切断され一切通信ができなくなります。災害が起こった時に、いかに被害を最小限に抑えるかということで、日々のメンテナンスや自然環境も見たいったら良いと思います。

(八木会長)

ありがとうございました。他にご質問やご意見はありませんか。

(神田委員)

先ほど、酒井委員さんが言われていたICTのところについては、ここで課題としてはあげられているので、施策の部分でご検討されてはどうかと思いました。

それと、大分戻って申し訳ないのですが、生涯学習の部分で、四万十町はなかなか広いので、講座などに来たくてもこられない方もいると思います。多分もう実施されているのかも分かりませんが、ライブ配信だとかケーブルテレビを使って、講座などを地域に届けていくということは必要ではないかなと思います。

(生涯学習課)

生涯学習課の味元です。ライブ配信等についてはまだやっておりませんが、持ち帰らせていただいて、方法についてもケーブルテレビさんと協議させていただいて検討してみたいと思います。

(企画課)

酒井委員、神田委員からもご意見がありましたがICTの全町的な分野のことにつきましては、神田委員から言われましたとおり、施策目標(18)のところで、追記をさせていただきたいと思います。情報通信やGIGAスクール構想など項目も多岐にわたっておりますので、包括的にこの分野で出させていたどうかかなと思います。

(八木会長)

続きまして、安全・安心の確保に移りたいと思いますので、ご意見等ありましたらお願いします。

(酒井委員)

65ページに「ライフスタイルの多様化等により公園に求められる機能も変化しています」とありますが、具体的にどういったことが公園に求められているのか教えてください。

(建設課)

公園というのは遊具があって、子ども達が遊ぶところというイメージが強いと思いますが、最近では四万十公社にもいろいろと工夫していただき、例えば森のピアノとかそういった活動もされていて評判も良いところです。大人も子どもも皆さんが楽しめるという内容に変わってきたのではないかと考えております。次から次へ新しい発想も生まれてきておりまして、より楽しい公園にしていけたらと考えております。

(酒井委員)

そしたら、特に災害の時に役立てるとかそういった機能を求められているということではないですか。

(建設課)

緑林公園は災害拠点施設にもなっております。もちろんそういったことも維持しつつ、通常の楽しめる場であるということで、機能的なものにしていきたいと思えます。

(八木会長)

他にご質問はありませんか。

(鈴木委員)

南海トラフ地震の時にどうなるのだろうということが非常に気になっています。以前防災に関する講演会があつて聞きにいった時に印象に残っていることがあるのですが、大地震が起きてその後すぐに何をしますかという疑問が投げ掛けられた時に、参加者の皆さんはそれぞれ子どもの安全を確認するとか、火が消えたかどうか確認するとか、ブレーカーを落とすとか意見を出していきまして、自分も同じような事を考えていたのですが、その中であなたが死んでしまっていたらとか、けがをして動けなかったらということ想定した方がいらっしゃいますかという事を講師の方が投げかけられて、はっとしたんですね。最悪の事態を考えておかないといけない地震がこれから100%くるということを頭に入れておかないといけないということです。そこで、本当に必要だと思ったことは、助けが来ない時にどうしたら良いかということ私達1人1人が身につけておかないといけないなと思ったんですね。特に身近なところでの応急処置を身につけておくことが必要だと思いましたので、町民の方が講習に参加してみようかなと本当に思っていただけのように力を入れていただけたらと思います。

(企画課)

おっしゃられるとおり、よく聞かれる言葉ですが、自助、公助、共助という防災3助というところが基本となります。初動の対応については、やはり自助ということで、自分の身は自分で守る、けがをしないということが基礎的な考え方となりますので、それに対する意識の啓発でありますとか、応急講習などの基礎的なスキルを身につけていくように進めていくということで、これまでも取り組んでおりますけれど、今後もなお一層取り組んでいきたいと思えます。

(三浦委員)

交通安全・防犯対策のところですが、うちの丸三ハイヤーは高知銀行のとなりの五差路に面したところにあります。今はコロナの関係で観光客もお遍路さんも少ないわけで

すが、地元の方もそうなんです、なぜだか皆さん交通量が少ないから安心だと思うのか、五差路の横断歩道のないところを突っ切っていく方がいます。私達が見ていたら、はらはらするようなことがあります。また、シルバーカーのお年寄りが車と同じように車道を走っていたり、それがすごく気になります。たまに警察の方に立っていただいて、現状を見ていただくようにしていますが、いつか大きな交通事故が起きるのではないかと考えています。皆さんが不規則に渡りたいときに渡るということがすごく危なくて、なぜこんなになってしまったんだろうと思います。個々の人やグループも何年か前から堂々と渡るようになってしまっています。

あと、私も職場と前の家の横断歩道を1日に何度か渡るんですが、青信号だと思って歩いていると車が来て、ひやっとすることがあります。この間もテレビでやってましたけれど、横断歩道を人が歩いていたら、車の前に人がいなくても、止まらなければいけないというのが交通ルールの基本なんですよ。それがすごく忘れられているんじゃないかなと思って心配しています。

(八木会長)

免許を持った方が運転しているとは思いますが、なお関係機関との連携をぜひ強力に進めていただけたらと思います。他にご意見はありませんか。

ないようでしたら、最後になりますけれど、行財政運営の方針で目指すまちの将来像の実現に向けてというところですが、ぜひ皆さん違った立場からの議論をお願いしたいところですが、ご意見をいただいて、なおかつ議論が必要であれば、次回の会議の中で深く議論していただければと思いますが、何かご意見はありませんか。

1番の協働によるまちづくりの推進について、これはまちづくり基本条例に協働ということが出ておりますけれども、皆さんの中でこういうまちづくりをというご意見があればお願いしたいと思います。

次に、経営的な視点に立った行財政運営というところですが、主に行政のお金の流れ、使い方等についてご意見がありましたらお願いしたいと思います。

ないようでしたら、今日は全部の項目を通したわけですが、まだ深く掘り下げて意見をいただく必要もありますので、今日はひとまずここまでということにしておきまして、岡村委員さんが今日はリモートで参加していただいておりますので、全体的なところで何かご意見等あればお願いしたいです。

(岡村委員)

オンラインはなかなか発言しにくかったんですけど、機会をいただきましてありがとうございます。さすが四万十町だなというところを印象として感じたところです。特にSDGsのことにも触れられていて大変いいなと思いました。

これから私が意見しますことは、少し耳の痛いところもあるかもしれないと思いますが、私個人としては、四万十町が日本の最先端、若しくは世界の最先端であってほしい

という願いがどこかに必ずありまして申し上げさせていただきます。

この計画全体を眺めたときに、2021年に計画が検討されていて、2022年から2026年までの5年間の計画ということですが、どうも2018年とか2019年に作成されたような感じを受けるんですね。というのは、今の我々のメインピックは間違いなく新型コロナウイルス感染症なんですね。これがもう、来年には終わっているような感じを受けるんですね、気持ちとしてはそうなってほしいんですが、ところがそうはなっていないんじゃないかなと思いますし、その影響を随分引きずっているんじゃないかなと思います。

それと、今年はオリンピックが行われた年でした。オリンピックはこれからの日本を象徴するキーワードが示されたんじゃないかなと思います。例えば、「多様性」とか、ちょっと前からありますが「共生社会」とか、これは四万十町だけではないと思いますが、こちらからの時代で率先して考えるべき事が何か1つあってもいいのかなと思いました。

また、委員の方々からのご意見が出ておりましたが、コロナの感染症のことや、デジタルのこともありました。5年前のデジタルというのは、1つの分野ということだったんですが、今は完全に横串を刺して、どこでも使えるようにしようという時代背景の中、デジタルで1つ項目が立っても良いような気がしました。

それと、これについては議論があると思いますけれど、観光や移住について、特に移住については、県内でも四万十町が一番ですよ。その四万十町の移住、それと四万十という名前を持っている四万十町が観光も移住も施策目標の中に入っていないところ、少し寂しい気がして、交流のという言葉に入っているわけです。ぜひ、そういったものも1つ明確に項目が立っても良いのではないかという気がします。私も計画を作る立場にもおられますので、非常に作り手の思いも分かるつもりでいますが、こういった計画を作る時には、ページの前半は1つの分野でも書けることが沢山あって、重厚に作っていくわけですが、後ろの方になると複合的分野になっていくんですね、そうすると一緒に入ってくるものは、時代のトレンドワークであったり、これからやらないといけないけどまだ明確に事業として立っていなかったりするものなんじゃないかなと思うわけですが、そういうところにも時代的にはフォーカスが当たってきているという感覚を受けますので、ちょっと大事にしていきたいなと思います。特に、昨今の時代の移り変わりは非常に激しくて、今まで価値として認められなかったものが急速なスピードで価値としてみんなに共有されたりだとか、いままでグレーだったものが、真っ白になったり、真っ黒になったりする時代なんですね。そういう点をこの総合振興計画でも意識されると良いかなという気がしました。

あと、最後の行財政運営の方針のところですけど、ここでも四万十町の特徴が少し薄れているような気がして気になったんですけど、やっぱり四万十町が得意としているところは行政広報だと思います。高知県の中でも一番行政広報が得意なところは、四万十町とか黒潮町だと思いますので、行政広報も協働のまちづくりの推進の中で触れら

れているのは若干寂しい気がしました。シティプロモーションという活動もされていて、大変行政広報に力も入れられていると思いますので、地域内外とのコミュニケーションも重要ですのでそういった点にも力を入れていただければと思います。

(八木会長)

ありがとうございました。全体的な事業の計画についてのコメントをいただきました。県の田村委員さんこれまでのところで何かありましたらお願いします。

(田村委員)

先ほど岡村委員がおっしゃられたとおり、全体のトピックの頭出しというところをもう少し検討されたらというご意見だったと思います。ということで、高知県のまち・ひと・しごと創生総合戦略の方を少し確認していたのですが、コロナの時代を対応しているのかというところですが、令和3年度の高知県版にはまだ頭出しをいうところまではできていなくて、外商の強化・観光の推進というところで、コロナ対策が一つの施策として入っているというような作り込みをしているという状況であり、すごく貴重なご意見だと思いました。

また、私の方からこれまでの皆さんのご意見や計画書を拝見させていただいて思ったことですが、本当に最初も申し上げましたが、すごく良い計画ができています。究極の目標は人口減に立ち向かう総合計画ということで、このまちに住み続けたいということやこのまちに帰りたいと思っていただけるような計画であったらいいと思います。この総合計画は、かなり分厚い計画だと思いますが、1つの分野の施策であっても、他の課題の解決につながるようなことがあって、例えば32ページにありました地産外商の強化のところでも、四万十町さんは特徴的に取り組んでいるところだと思いますけれど、これをやることによって四万十町の基幹産業である1次産業の振興につながるだとか、トップランナーとして取り組まれている移住対策のところにもつながっていくとか、その産業が強くなることによって、全産業で課題となっている担い手の確保につながっていくだとか、人材育成の部分とか、1つの施策によって、いろんなところの施策目標につながっていくので、ここで書かれてある取り組みはそう考えるとすごく、分厚い内容になるんじゃないかなと思っています。1つ申し上げたいのは、きめ細かく施策を書かれておりますので、これをしっかりPDCAを回していくことが一番大切なのかなと思っています。また、評価をしっかりやって、次の予算や施策の方向性に生かしていくということをやリ続けるということ、この計画をフルに活用し続けるということを行政の皆さんも住民の皆さんも一緒になって進めていただければと思います。

(八木会長)

ありがとうございました。一応本日議論をすべきところについては終わったわけですが

が、皆さんはこの計画の策定の委員さんですので、この後期の計画をどういうところを目指すのかということについては、次回あたり議論してもいいかなと思うわけです。といいますのも、これからの四万十町をこうしていきたいとか、どうしていきべきなのか、ということについて、それぞれの機関や団体の方が自分達の立場でもって考えていくという中で議論しながら、四万十町の将来について考えていくという場にできればいいかなということで、時間がありませんがキーワードだけでも結構ですので、こういうまちを目指していったらいいということをお1人ずつ発言いただけたらありがたいと思います。

(神田委員)

以前お話をさせていただきましたけれど、人口減に対してどう対処していくかということで、当然増やしていくことや人口減を遅らせていく施策はとられているわけですが、どうしても減ってしまう中でどうしていくかという視点を大事にしてほしいということ。

それと、もう1つはそれぞれの施策の目標はすごくいいと思いますけれど、どうしてもそれが違う仕事でどうしても競合してしまうとか、対立してしまうところがあると思います。例えば文化的景観と新エネルギーとか、防災とか、今もそのバランスというのをきちんととっていて、皆さんがご苦労してやられていると思いますが、皆さんがご苦労してやられている部分をきちんと書き込んでおくというのがいいのかなと思います。

(三浦委員)

お客様はご高齢の方がほとんどなんですけれど、すごく認知症の方が沢山おられて、私達も電話を聞くときに、しつこいと思われるかも分かりませんが、何時に来てくださいと言われてたら、何時にどこへ行くんですね、その予約は何時からなんですかとそこまで聞いて、もし間違いがあったら直すということで気をつけるようにしていますけれど、これからも認知症の方が増えていくと思うので、施設に入れない方も沢山いらっしゃると思うので、完全な健康でない立場でも皆さんがそれぞれ自分らしく社会で生きていけるために少しでもお役に立てるようにがんばりたいし、そういう四万十町であり続けてほしいと思います。

(藤沢委員)

先ほどどなたかが窪川高校と窪川中学校の事を比較しておっしゃられたと思いますが、私は今年窪川高校の地域コーディネーターということで仕事をいただいて、学校給食ではないのですが、町内の給食センターの協力で、今年度から始まった町内高校の給食のお手伝いなどもさせていただいています。自分も窪川高校を卒業しているのですが、今の窪川高校の学校の現状について本当に何も知らなかったんだなという思いでショ

ックを受けました。でも、それから学校の現状を知るにつれ、校長先生をはじめ、本当に先生方も一生懸命に、全部で生徒は69名おりますが、子供たち1人1人と向き合っています。200人以上いる窪川中学校とは違って、部活動についてもいろいろやるのは無理なんです、その中でできることを一生懸命さぐってやられていることがこの3か月でよく分かりました。

それと、障害児の項目がありましたけれど、保育所でも先ほど加配保育士が16名ついているという話がありましたが、高校でも一見ちゃんと受験にも合格して、何も変わりがないように思うのですが、中には授業についていけない子どもさんもいます。そういった現状も皆さんに知っていただくことが大事ではないかなと思いました。

(酒井委員)

実感として思ったことですが、高齢化とか人口減とかそういったことは全国共通して、これが四万十町の総合計画だという特徴をいきなり感じることも、もしかしたら薄いかもかもしれないと思った時に、少し強引なのかもしれませんが、各施策とかの上のところに四万十川ということをつけて計画をしていくと、結局は四万十川を中心に考えてみたら、山のことや農業のことや観光のことなども必ず関わってきますし、福祉や教育のことも川を使ったところでも考えていければ、もう少し四万十町の特色ある計画書ができて、町民からみても興味や愛着が湧くのではないかなと思いました。

(山本委員)

四万十町は1次産業のまちで、87%が山地と聞いてますけど、やっぱり地産地商でみんなが町内の物を食べて、少しでも町内の収入でやり繰りをするというすてきなまちに近づけたらいいなと思います。

それから、四万十川がきれいなところなので、ホテルのまちを目指したら良いと思います。何年前には実家近くにホテルも見えていたのですが、今はどうなっているのかなと思っています。子ども達にもホテルを見せて、そういった自然体験などもさせてあげたいなと思います。

(野村委員)

目指すまちということですが、簡単に言うと自然が豊かな美しいまちということになると思います。具体的に言うと、ごみがないとか、興津や松葉川温泉とか川を含めてそれを生かすまちづくりができたらと思います。

(鈴木委員)

一番言いたいことは、安心して暮らせて、安心して死ねる地域ということが本当に大事だと思っています。また、この地域のお年寄りには宝だと思う出来事があるって、山奥に1人で生活されているおばあさんがいるんですが、毎日朝から晩まで畑仕事にいそしん

でおられるんですね。それとか、90歳を過ぎて大分弱ってきているおばあさんがいるのですが、身の回りの物は小さいころから何でも作ってきたという方がいて、その方の話を聞いていると、この方の残りの人生をずっと寄り添っていたとしても、この方の引き出しを全部開けることはできないだろうなというぐらい、いろんな知恵を蓄積してきた人生を歩んできたおばあちゃんがいたり、90歳を過ぎても遠く離れた家族に、自分でついたお餅と白菜を段ボールに詰めてコミュニティバスに自力で積んでいくんですね。集荷してくれることを伝えても、自分の力でもっていきたいということなんですね。なので、年寄りが幸せで生きていけるということは、移住してきた方も自分はずっとこの地域に住んでいて安心して生きていけるんだと思えることだと思います。移住してきたけど又出ていってしまうということの1つには、ずっとここにいて大丈夫だろうかということもきっとあると思いますので、年寄りが幸せに暮らしているということが大事だと思います。

(横山(泰久)委員)

先ほど、山本委員さんの方から地産地商の話がありましたけれど、農協の方としても地域で食べていくものについては地域で作っていきけるような取り組みや体制をとっていきたいと考えております。みどり市もやっておりますけれど、生産者も高齢になって減ってきている状況ですので、そういったところを今後拡大していきけるようにしたいと思っております。

(中島委員)

これから10年先、20年先の四万十町を考えると、子育て世代の住みやすいまちであってほしいと思います。それには、やはり子育てしやすい環境とか、保育・教育の一層の充実を目指してほしいと思います。

(横山(順一)委員)

機会がありましたら、人権のこと、コロナウイルスのこと、人口のことについて話をしようかなと思っておりましたが、人権については今条例の策定について取り組みがされているということで、計画の方も立てる予定ということですので、ぜひ広報活動について充実していただけたらと思っています。

また、コロナウイルス感染者の対応を準備しておく必要がすごくあるんじゃないかなと思っています。窪川病院で一定受け入れをしていただけるということは聞いておりますけれど、今自宅療養とか宿泊施設という数も相当増えている状況です。町の方も感染者の対応をどうするかということを考えているとは思いますが、こういったことを施策の中に書いてもいいんじゃないかなと思っています。

それから、人口については振興計画の中で人口減少という言葉がすごく沢山でできます。会長さんのご挨拶の中でも人口のことが触れられていたと思いますし、高知大の岡

村委員さんも言われておりましたとおり、この人口減少対策というのは全ての振興計画に関わっていくもので、すごく大きな課題だと思います。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも示されているわけですが、39ページとか48ページにもあります主な個別計画のところ、四万十町の移住・定住計画に示されておりますが、この計画の中で分散的に書かれているので、できれば整理して人口減少対策に関する項目を新しく設けるとか、22ページの施策体系の中に入れ込むとかですね、そういったところを検討いただければと思います。

(森委員)

災害に強いまちづくり、それが住みやすいまちになると思います。

(佐々木委員)

目指すまちということですが、私の立場からしまして、商工業・農業なので基幹産業であります農業が非常に強いものがありますので、今コロナの影響により、商店さんも非常に苦しい状況となっています。そういった施策も含めて、まちと商工業、農業が手を取り合って前に進んでいけるような、そんな計画にしてほしいと思います。

(田邊委員)

四万十町は、山の財産がありますし、同じ農業の方も農地などの財産がかなりあると思います。ただ、休耕地が山間部で広がっていると思いますので、そこらへんをもう少し改善できたらいいかなと思いますのでよろしくお願いします。

(尾崎委員)

目指す姿というところでは、町民1人1人が自分ごととして考えられるまち、やはりこういう計画を立てても行政任せ、専門職だけではなかなか住みやすいまちにはならないと思います。そういうところを自分ごととして考えられるまちにしていけたらと思います。

(船村副会長)

自分が目指すところは、今皆さんで立派な計画を考えているところですが、10年先、20年先は何が起こるか分かりません。今回のコロナの感染についてもそうだと思いますし、自分より若い者やそれぞれの年代がその時その時の状況に対応できる、順応できる子ども達が1人でも多く育ってもらいたいと思います。

(八木会長)

ありがとうございました。皆様方の目指すところは、安心して暮らすことができる四万十町が永続的に続いていく四万十町ということだと思うんですが、今日キーワードを出していただきたいと思うのは、せっかく委員さんになっていただいておりますので、

そういう委員さんの思いも計画の中に反映できたらという思いで、ご意見をお伺いした次第です。ちょっと時間が過ぎましたが、皆様方のご意見もお伺いしましたので、本日の審議会は終了とします。新型コロナの感染が流行っておりますので、次回の会議については事務局からまたご案内をさせていただきますのでよろしくお願いします。最後に副会長のご閉会で閉会しますのでよろしくお願いします。

(船村副会長)

長時間ご審議いただきありがとうございました。ただ今会長からお話がありましたが、次回の会がいつになるのかということはまだ決まっておられませんけれど、コロナには十分気をつけていただきまして、また次の会も元気にお会いできることを願っております。本日はありがとうございました。

— 閉 会 —